

2011年度

事業報告

自 2011年 4月 1日

至 2012年 3月31日

公益財団法人 正力厚生会

〔がん患者支援事業〕

<患者団体への助成>

患者団体等への助成事業（継続）

全国のがん患者会や支援団体などで、資金不足からイベントやプロジェクト、研究などができない団体を一般公募し、専門委員会での審査を通過した団体に活動資金を助成する事業です。全国の18団体に助成しました。助成金は、患者同士の交流を促進するためのHP開設、がんケアサロンの運営費、専門医師などを講師に招いての勉強会・講演会開催に伴う諸費用などに充てられました。

<「がん医療フォーラム2011」開催>

がん治療の最前線などをテーマにしたフォーラム開催（新規）

正力厚生会ががん患者支援事業を始めて5年が過ぎたことから、これまでの助成事業の総括として「がん医療フォーラム2011」を2011年11月10日に都内で開催しました。助成対象先だった国立がん研究センターとがん研究会有明病院との共催で行われたもので、約500人の方々に足を運んでいただきました。

フォーラムは2部構成で行われました。「がん治療の最前線」がテーマの第1部では、両共催病院の医師4人が登壇し、放射線や遺伝子治療の分野における最新の治療状況についてスライドを使用しながら分かりやすく説明しました。

「医療側と患者側のコミュニケーション」について討論した第2部では、専門医2人とがんの闘病経験がある患者団体の代表2人が討論に参加、医療側の相談支援体制における現状と課題のほか、これから期待される患者団体の役割などについて活発な意見交換が行われました。

また、会場では、正力厚生会が助成したがん患者団体の日ごろの活動内容を展示する「交流コーナー」も設けられ、助成先のうち25団体が参加し、来場者との親交を深める光景が見られました。

当日のフォーラムの内容は、12月14日付読売新聞朝刊に全国通しで掲載されたほか、読売新聞の医療情報サイト「ヨミドクター」でも公開されています。

<QOL(クオリティー・オブ・ライフ)向上への助成>

読響ハートフルコンサート（継続）

がん患者や家族たちの心を癒すため、読売日本交響楽団員をがん診療連携拠点病院に派遣して弦楽四重奏などを披露しました。2011年度は、全国6か所（山形・長野・三重・岡山・香川・大分）で開催しました。

各会場では、多いときで患者や医師、看護師などの医療従事者約10

0人が集まりました。会場からは、「素晴らしい音楽から力をもらった」「良い気分転換ができた」などの声が寄せられ、好評をいただきました。
なお、各会場でのコンサートの様子は、読売新聞の各地域版に掲載されています。